

自身の体験を1冊に 一宮城光吉さんが戦争体験記を自費出版一



著者の宮城光吉さん(中)

医療法人愛和会(宇池田)会長を務める宮城光吉さん(81)が、自らの戦争体験を記した本「少年兵の追憶」を自費出版し、町へ寄贈しました。宮城さんは沖縄戦時15歳で、第二歩兵隊無線通信隊の兵士として戦争を経験。慰霊の日に合わせて完成した本には15歳の少年が感じたことがありのままに書かれており、「死線をさまよった学友と天で再会したとき、せめて誇れる沖縄であって欲しい」とつぶられています。宮城さんは「本を通じて戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えてもらいたい」と語りました。「少年兵の追憶」は、町立図書館でご覧になれます。

小波津地区で平和学習と慰霊祭を実施

小波津自治会(糸数栄吉会長)は6月23日、同区子ども会を対象に戦争の悲惨さを学ぶ平和学習を実施しました。文教のまちガイドとして活動する玉那覇三郎さんが講師を務め、子どもたちは資料を片手に話を聞いていました。同日夕方には小波津慰霊碑前で慰霊祭を開催。式典では平和学習の報告や合唱、平和へのメッセージが朗読され、戦争を体験したお年寄りから子どもたちまで多くの方が参列し、戦没者の冥福を祈りました。



犠牲者に黙祷する参列者

海上保安庁が西原東小で出張授業を開催

6月10日、マリトレジャーが盛りになる夏を前に、海難事故の撲滅と環境の大切さを学ぶことを目的に、中城海上保安部の職員が西原東小の3年生を対象に出張授業を開催しました。授業では海の危険性などがスライドを使って示され、生徒たちは「1人で海に行かない」などの注意事項を学びました。中城海上保安部の仲原幸一警備係長は「今年度は海難事故が増加傾向にある。授業を通じて事故の防止と海洋環境の保全を学んでもらいたい」と語りました。



県PTA連合会会長に 宮城辰三さんが就任

6月5日に開かれた沖縄県PTA連合会の2010年度通常総会で、町PTA連合会などで活躍する宮城辰三さんが会長に就任しました。本町から会長に就任するのは初めてのことで、宮城さんは「大人が、えりを正して子どもたちに見本を見せることが大切。地域での声かけを実践するなど、大人が地域の子どもに目を向けるように働きかけたい」と抱負を述べました。



県PTA連合会会長に就任した宮城辰三さん(右)

新中糖産業(株)が人材育成会へ寄附

新中糖産業株式会社(福里重盛代表取締役社長)が町人材育成会(上間明会長)へ50万円の寄附金を贈りました。新中糖産業(株)は製糖業などで町の産業発展に寄与してきた企業で、昨年創業50周年を迎えた福里社長は「地域の人材育成に少しでも貢献できれば幸いです」と語りました。



福里重盛社長(左)

西原東クラブ、全国大会へ出場 一全国バレーボール小学生県大会で優勝一

6月20日に開催された「第30回記念全国バレーボール小学生大会沖縄県大会(男子の部)」で、西原東クラブが見事優勝を飾り、8月11日から東京で開催される全国大会への切符を手に入れました。キャプテンの玉那覇優斗(ゆうと)くんは「全国大会ではいい成績を残せるように頑張ります。目標は優勝」と力強く決意を口にしていました。



まちの話題

ミックスダブルスを通じて男女共同参画を 一第5回西原町長杯さわふじミックスダブルステニス大会一

テニスを通じた男女の協力、支えあいのもとでの男女共同参画の構築を目指すことを目的に、6月27日「西原町長杯さわふじミックスダブルステニス大会」(町テニス協会主催)が町営テニスコートで開催されました。大会にはベテランクラス、ビギナークラス各8組が参加し、男女がペアを組んで試合を行うミックスダブルス競技で勝敗を競いました。また会場内では「男女共同参画パネル展」も行われました。



ビギナークラス優勝の「チーム西原チューソン's」(左)と準優勝の「ていーだかんかん」(右)

男女共同参画社会を目指して、北谷町と交流会を開催

西原町女性団体連絡協議会(川満ヤス子会長)は7月7日、町立図書館集会室に北谷町の女性団体の代表を迎え「たなばた交流会」を開催しました。この交流会は、女団協の立ち上げを検討している北谷町からの申し入れで実現し、川満会長から西原町女団協の15年にわたる活動の経過と、西原町民憲章に定められている、香典料を1,000円以内にする新生活運動の徹底を町行政に呼びかけている活動の報告がありました。北谷町からも新生活運動についての取組みが紹介され、活発な意見交換が行われました。最後に、北谷町を代表して清水早苗さん(北谷町更生保護女性会)より、「大変有意義な集会になりました。女団協の設立に向けて検討します」とのあいさつがあり、会は終了しました。



県産品の優先使用を 一県産品奨励キャンペーン要請団が来町一

7月1~31日の間「美ら島の 元気の源 県産品」をスローガンに県産品奨励月間が展開される中、7日、県産品奨励キャンペーン要請団(団長・濱門稔沖縄県JIS協会会長)が本町を訪れ、町及び町議会へ県産品の優先使用について要請を行いました。本キャンペーンは県産品の需要拡大を図ることで企業育成と雇用拡大などを促進し、県内経済を活性化することを目的としており、今回の要請は公共工事の発注や物品の購入にあたり、県内企業及び県産品を優先する趣旨となっています。対応した崎原建設部長は「本町は公共事業の情報提供や町内企業への優先発注、地元資材の使用を継続的に取り組んでいる。今後も町や県経済の活性化を目指し、積極的に取り組みたいです」と述べました。



新垣静華さん、ネパールへ派遣 一JICAボランティアで青年海外協力隊に参加一

青年海外協力隊等の国際協力活動を目的とするJICAボランティア事業の平成22年度派遣事業に派遣されることになった、新垣静華さん(宇那覇出身)が出発前に町役場を訪れ、意気込みを語りました。現在、県立高校の地理歴史科の教師である新垣さんは、「現職教員特別参加制度」を活用して青年海外協力隊として2年間ネパールに派遣されます。「これまでの経験を生かし国際協力を努めるとともに、自分自身の視野を広げる機会にしたい」と抱負を語りました。派遣先のネパールは小学生の途中退学が多いため、改善を目指して現地スタッフと連携しながらさまざまなプログラムを実践するとのこと。



新垣静華さん(中央)